

# ヤマユリ通信 開花号

麻生区地域課題対応事業 麻生ヤマユリ植栽普及会 H23. 9. 29 発行 Vol.3-2



### ◆もくじ◆

- ▶ヤマユリ自生地散策： 険しい崖で生き抜くヤマユリ! . . . . . 1
- ▶連載：ヤマユリ今昔② ヤマユリの命名競争の熾烈さ . . 永留真雄 . . . . . 2
- ▶開花マップ：23年度麻生区ヤマユリ開花マップ調査 . . . . . 3
- ▶鉢植えヤマユリ植え替え方法：11月は球根の植え替えの時節ですよ! . . . 4



## 険しい崖で生き抜くヤマユリ!



今年の夏、富士山の裾野にあるヤマユリの自生地を、地元の園芸家・山下信夫氏のご案内で散策の機会を得ました。美しい裾野の原生林の中にある「十里木の別荘地」内を中心とした地域です。

広大な緑地の数十センチ下は、溶岩台地とのことで、あちこちに溶岩塊がゴロゴロ。溶岩を積み上げて造った個人宅の崖に美しいヤマユリが咲き誇っていました。

その崖をよく観ると芽吹きした1年もの、2年もの、3年もの、4年もの、開花までの過程をすべて観察できるではありませんか（写真左上）。たまたま庭の手入れをされていた主に「植栽されたのか」と尋ねると、すべて自生のヤマユリ」とのこと。

「庭の自生ヤマユリの種がこぼれて、崖に着生したのではないか。年に一、二度、下草刈りするだけで、何も手を加えていない」と笑顔で答えていただきました。

この崖を観て「こんな場所です、どうして力強く生き抜けるのだろう」と、正直、驚きました。都会のアスファルトの道路端で育つ「ど根性大根」ならぬ、「ど根性ヤマユリ」の姿をみた思いがしましただが、ここでは、普通にみられる光景だとか。

さらに、その強さを印象づける場所に移動しました。山の石垣一面に群生するヤマユリです（写真左中）。

先ほどの個人宅の自生ヤマユリより、もっと自然そのものの中に生き抜く数世代のヤ

ユリが生育していました。かつて、麻生区内の里山でも、このような景色があったのではないかと、の思いに駆られました。

別荘地内では、花弁がピンク色のもの、赤い斑点がほとんどないもの、赤い斑点が大きく濃いもの、紅筋ヤマユリなどのいろいろな変種ヤマユリも観ることができました。

ところが、いいことばかりでなく、イノシシによる食害、最近では、シカによる食害がひどく、折角、咲いたヤマユリの花を片っ端から食べられてしまうとのことでした。実際、シカに食い荒らされた跡が、あちこちに散見されました。シカは夜行性なのに日中にも出没するとか。何とも悩み多い現実にとばを失いました。



▲紅筋ヤマユリ



▲花弁がピンク色



▲赤の斑点が大きく・濃い



▲赤い斑点がほとんどない



# 日本から世界へ ヤマユリの命名競争の熾烈さ

数種ある日本の原種ユリの中で、ヤマユリの命名をめぐるドラマには、大いに興味をそそられます。

カノコユリ等、日本のユリについて具体的な名前や特徴を初めて海外の文書に記録した人物は、ドイツ人、ケンペル(1690~1692年滞在)で、1712年(江戸中期)のことです。

しかし、彼が紹介した七種のユリには、ヤマユリは含まれていませんでした。

ケンペルは箱根山中を通り、時期的に(二~五月)ヤマユリの花を見る機会がなかったのかもしれませんが、18世紀に入り、未発見の植物を収集する「プラントハンター」の活動が西洋諸国による有用植物獲得競争の様相を帯びてくると、鎖国していた日本も探索の対象となりました。スウェーデン人の「P. ツンベルグ(1775~1776年滞在)、19世紀には著名なP. F. VON シーボルト(第1回・1823~1829年滞在)が日本を訪れ、ユリについても詳細な記録を残しています。

しかしながら、この二人もヤマユリの記録を残していません。

シーボルトは本国に球根を持ち帰ろうとしましたが、途中腐敗させてしまったため、もともと、この二人はカノコユリを初めて紹介するという功績を残していません。

ヤマユリが初めて紹介されたのは、更に後の1862年(幕末期)です。イギリス人J.G. ヴェイチーが前年に本国へ持ち帰った球根が七月二日に開花し、英国王立園芸協会(R.H.S.)の展示会に出品しました。これを「リンドレー」が *L. auratum* と命名し、ケンペルが初めて日本のユリを紹介してから150年後に、ようやく世界に知られることとなりました。

もともと、高名なプラントハンターであったP. フォーチュンも1861年に磯子近辺でヤマユリを採



FAVOURITE FLOWERS OF GARDEN AND GREENHOUSE (1867) イギリス、キュー植物園関係者が出版した植物図録に記載されたヤマユリ。(神奈川県立大船フラワーセンター所蔵)

集し、ヴェイチーと同じ船でイギリスに球根を持ち帰っています。また、同じ1862年には、北アメリカやベルギーにも球根が到着し、イギリスに遅れること一〇日後の七月十二日に、マサチューセッツ州園芸協会がヤマユリが開花しています。これをホーベイが *L. dexteri* (Hovey) と命名し、現在でも学名上では異名(synonym)となっています。

もしヴェイチーが持ち帰ったヤマユリの開花日が遅れていたなら、現在使われている学名も変わっていた可能性があります。ヤマユリが命名されるまでには、最後にプラントハンターたちの熾烈な競争があったとのことです。

カノコユリやヤマユリの豪華さや強い芳香は、それまでヨーロッパ人がユリに対して持っていた、マドンナリリーのような清楚なイメージを一変させてしまいました。

この後、ヤマユリを含む日本のユリは、重要な輸出品として注目されるようになります。

◆参考文献：「日本のユリ」清水基夫(1971年)誠文堂新光社

## 7~9月 植栽地 便り!

### ヤマユリの大輪の花を堪能できる緑地に・・・



七月は、ヤマユリの漂う香りにひかれ美しい大輪の花を觀賞する季節でもあります。

岡上地区、王禅寺地区、万福寺地区などの植栽地は、区民のみならず、その光景を是非観てほしい緑地へと再生しつつあります。ヤマユリの再生には、ツル草を駆除したり、伸びすぎた下草は膝上から刈り取ったりする作業も必要ですが、今年の暑さは尋常ではないものですから、八月は各地区とも作業を休みました。

ところが、九月になつて植栽地に入ると、ヤマユリの株がどこにあるのかもわからないほど、雑草が伸び放題。メンパーも悲鳴を上げ、草刈り機や鎌を振る汗を流しました。

もう一つ、九月は、花が咲き終わり、実を付ける季節でもありません。そのままにしておくと、朔の中の実を害虫に食べられ、秋にほとんど収穫できなくなります。そこで、生育の良い朔に袋かけを行いました。活動当初は、病害虫の被害でほとんど収穫できなかったのですが、専門家の指導で、一年前より数十朔は収穫できるようになりました。この種を将来に備えて育てているところです。

# 23年度麻生区ヤマユリ開花マップ調査

散策記

## 緑豊かな里山の黒川地区、ヤマユリ自生地を散策しました



2011.07.30

七月の末、小田急多摩線のはるひ野駅に隣接する、黒川谷ツ公園に行ってきました。思ったより明るい谷戸で沼地から丘まで変化に富み、子ども頃の懐かしさすら感じました。散策時期が少し遅れ気味でしたが、ヤマユリを三ヶ所で見かけました。丘から小川への斜面が一番心地良さそうでした。



2011.07.30

このあと地図を頼りに「黒川よこみね緑地」から「よこやまの道」を少し歩いて黒川駅へと戻ってきました。谷戸の青田を眺める道において間もなくの畑奥に三株ヤマユリが咲いていました。畑仕事の中のかたの話によると、丈高い藪を払ったところ程咲き出したそうです。その後、誰かに掘り盗られたとかで残念そうでした。

また少し行くと田んぼの向こうの斜面にもヤマユリを見つけました。かなりの距離に点々と咲いていました。さらに毘沙門大堂にも二株、風情よく咲いていました。やや疲れましたが十分に堪能した半日でした。どんな場所が、ヤマユリのお気に入りなのか、分かってきたように思われます。(長井輝恵)

◆ 今年は、ヤマユリの開花期が春先の雨不足などの天候不順で、昨年より四、五日遅れました。そのため、毎年会員によりて行っている麻生区内の自生ヤマユリの開花マップ調査は、七月中旬から下旬になりました。

絶滅が懸念される中、柿生地区、黒川地区、王禅寺地区、早野地区、千代ヶ丘地区などで、自生のヤマユリが生育していることがわかりました。

それぞれ、生息地の趣ある特徴を観察でき、新たな自生地も確認できました。

柿生地区では、緑地の小径の側でひっそりと咲く姿、黒川地区では、広い緑地の斜面に点々と咲く眺望、麻生台団地の庭では、花の女王よろしくひとひしに数十もの花を付けて咲き誇る様、そして当会が育成保存している植栽地では、花畑のように咲き乱れる様子などと、ヤマユリが“ふるさと自慢”になる日が待たれます。◆

## 23年度 麻生区ヤマユリ開花マップ



### 株数凡例

- : 2~5株程度
- : 10株程度
- : 30株以上



①球根を鉢植えから取り出す。

<種まき鉢の場合>



<球根鉢の場合>



②球根の根をできるだけ傷めないように土を落とし水で洗う。



③上根の下で球根を切り離す。



上根・下根共に長さ・多さに驚く！

④球根をベンレート水和剤500倍液に30～40分浸す。

殺菌剤は、種まき鉢も球根鉢も同じ。



⑤球根を取り出し陰干しにして乾かす。(30分～1時間)

<種まき鉢の場合>



<球根鉢の場合>



⑥鉢の選定：菊鉢8号・9号 プランターの場合は深さ22、3cm程度は必要。



底に30程度の穴を開ける



鉢底の裏

⑦用土

<割合>

- ア) 鉢底石(軽石).....1
- イ) 赤玉土.....6
- ウ) 赤玉土(7)+腐葉土(3).....3

用土は、種まき鉢も球根鉢も同じ。ア)～イ)の割合で順に用土を入れる。



⑧植え付けの深さ：球根の3倍

<種まき鉢の場合>

植え付け間隔10cm程度(小指の先大3球)



<球根鉢の場合>

根を広げて、鉢の中央に



球根が倒れないように支えながら土入れ



鉢仕立ての断面図

肥料は不要

第9回ヤマユリ鉢植え講習会(球根)



▲用土の量と使う順番に注意して！

ヤマユリの球根鉢植えの時期が参りました。講習会を下記の要領で開催の予定です。難しい用土の配合の仕方から育成管理の仕方までを講義と実習で手ほどきいたします。

○開催日時：11月21日(月) 13時30分～16時

○会場：麻生区役所 会議室・広場

○定員：40名(区内在住)：定員オーバーの場合は抽選

○参加費：1,500円(材料費：球根1球、鉢(8号)、用土(4種))

○参加希望者：往復はがきに(一人(1家族)1通)

①氏名(ふりがな)、②〒住所、③電話番号

○締め切り：11月7日(必着)

○応募先：〒215-8570 (麻生区万福寺1-5-1)

麻生区役所地域振興課 ヤマユリ鉢植え講習会担当行き(明記のこと)

TEL:044-965-5370 FAX:965-5201

◆留意点：当日欠席でも、仕立て鉢引き替えで参加費をいただきます。

会員募集中

地域のボランティアのみなさんと一緒にヤマユリに親しみながら緑地で汗を流しませんか。

年会費：1,200円

定例会議：原則、毎月第2木曜日 午後(11月は第3木)

会場：交流館 やまゆり

植栽活動：指定の各緑地(月に1回～2回)

★問合せ・連絡先：当会会長(事務局)貞本 勉

TEL:090-7175-4995

E-mail: tsutomu.sadamoto@nifty.com

行事予定

10～12月の主な予定

10月 ヤマユリ植栽地の下草刈り

10月17日 鉢植えヤマユリ植え替え情報交換会

11月21日 ヤマユリ鉢植え講習会

11月～12月 ヤマユリ植栽活動(6か所)